# 「市民ジャーナリズム」講座

「疑う力」や
「創る力」を培う

2025

## 4.12(土)

**岡田 豊**
ジャーナリスト、元テレビ朝日アメリカ総局長、著書『ジャーナリズム・リテラシー』彩流社ほか

疑う力・創る力
市民ジャーナリズム

## 4.26(土)

**青木 美希**
ジャーナリスト、著書『なぜ日本は原発を止められないのか』文春新書ほか

報道の現場で、
何が起きているのか

## 5.10(土)

**三原 由起子**
歌人、歌集『ふるさとは赤』、『土地に呼ばれる』、福島県浪江町出身

声を束ねて

## 5.24(土)

**かさこ**
メディアウオッチャー、映画『シロウオ』監督

ネットメディアの
威力と課題

## 6.7(土)

**熊谷 伸一郎**
月刊『地平』編集長、主著『なぜ加害をかたるのか』ほか

変革の拠点としての
メディア

## 6.21(土)

**文(ムン) 聖姫(ソンヒ)**
週刊『金曜日』発行人、前編集長

『週刊 金曜日』
編集長を3年間務めて

---

**全6回**

前納予約制 各回2000円 全回参加者割引あり 定員25人

土曜日 13:30ー16:40 開催

会場 神﨑建設「桜匠館」 井の頭線「浜田山駅」7分

主催:千曲川・信濃川復権の会／コーディネーター:矢間秀次郎

いまや、「喧噪の時代」である。真贋ないまぜのノイズが激しい。ほしい真実の情報がタイムリーに得られているだろうか。人々の価値観や行動規範が揺らぎ、多様性がアメーバのようにひろがっている。第50回衆議院選の結果も新聞各紙に「自公　過半数割れ」との大見出しで、多様な「党派」が乱舞した。

この変革の兆しは、政治の分野にとどまらない。社会・経済・文化にも変容をもたらし、グローバルなスケールで脈動していく。いっそう情報の役割がふくらみ、ジャーナリズムが「羅針盤」たりうるかが問われる。しかし、既存のジャーナリズム（ラジオ・テレビ・新聞・雑誌等のメディアを含む）の衰退がいわれて久しい。SNS等が台頭してきたものの、混沌がつづいているからだ。

こうした状況をどう打破するか――「市民ジャーナリズム」の実践活動（『奔流』創刊15周年）をふまえ、手のひらを開いて学びあい、「疑う力」や「創る力」を培う講座を下記の要綱で開く。ジャーナリズムの本来的な意味と役割をかみしめるとともに、精気に満ちた息吹をとりもどす一助としたい。国籍・年齢・性別・学歴を問わず、どなたでも歓迎。“学びの広場”にご参集ください。

## 期間

2025年4月12日、26日、5月10日、24日、6月7日、21日（月2回、土曜日午後に全6回開催）

## 会場

神﨑建設「桜匠館」（東京都杉並区浜田山4-10-8 井の頭線「浜田山駅」7分）。略図参照。

## 参加費

@2000円（全6回参加予約者2000円引き10,000円。定員25人〆切、前納予約制。各回個別5人まで追加参加可）

## 内容

拡大ゼミナール方式（コーディネーター：矢間秀次郎）
①13:00開場
②13:30～15:10講義、質疑応答（100分）
③20分休憩
④15:30～16:40「わが文章・編集作法〈全6回、各70分〉」
『奔流』編集人：矢間が、童門冬二・内藤国夫・井上ひさし・桑原武夫・佐多稲子・国分一太郎・岡田喜秋先生の著書を教材に担当。右の段参照。

## 講師陣　▶表面参照

## 特典

①6回の皆勤者に、『奔流』第36号、37号を贈呈。
②最終6回目に、テーマを二つ全受講生に提示し、論文・評論・ルポ等で2000字。最優秀作品は『奔流』に掲載（稿料@10,000円〈税込〉進呈）。審査は、本講座企画委員&講師陣の有志が厳正、公平に担当する。〆切8月末。発表9月末日。文書で全応募者に通知する。

## 主催（申込、振込先）：千曲川・信濃川復権の会

FAX042-381-7770またはメールh-yazama@oregano.ocn.ne.jpへ。名前・住所・電話番号を明記。
▶振込先：郵便振替 00120-0-710488へ参加費振込みで名簿登録（先着25人定員〆切）。

## 市民ジャーナリズム講座「わが文章・編集作法」一覧

●教材&■講師の小文

**第1回　4月12日**

**童門冬二著『【童門式】資料整理法』**実業之日本社 1999年1月12日刊。定価1400円+税。●テーマをどう決め、資料をいかに選ぶか。小説を書くための“コア”となる「心」とは。■2024年冬・79号タウン誌『Life Crossing』「敗戦国の原点をふまえ歴史に向き合う日々」。＊全員に原本を配布。

**第2回　4月26日**

**内藤国夫著『私ならこう書く～体験的文章上達法』**ごま書房 1980年12月5日刊。定価730円。●辣腕記者がはじめて明かす、簡潔・明快な文章の書き方。削って、削って、なお削り抜く。書き出し十行、とめの一行が勝負。■2024年10月25日1494号『週刊金曜日』論考「『公益通報者保護法』の改正～問われる市民の底力」。

**第3回　5月10日**

**井上ひさし著『自家製文章読本』**新潮社 1984年4月1日刊。定価920円。●話すように書くな。踊る文章。■1960年12月号『学燈』「學燈作文教室」入選「空」。

**第4回　5月24日**

**桑原武夫著『文章作法』**潮出版社 1980年3月5日刊。定価980円。●できるだけ簡潔明瞭に、達意の文章でありたい。■1993年2月22日『徳島新聞』朝刊:「小さなコインに映えた原風景」。

**第5回　6月7日**

**佐多稲子・国分一太郎編著『文章創作教室』**創林社 1980年5月10日刊。定価1200円。●視点のおきどころと人物心理の描写、構成のさまざま、人物の描き方。■2014年10月18日『朝日新聞』朝刊：私の視点「被爆70年～歴史検証の責任果たそう」。

**第6回　6月21日**

**岡田喜秋著『私の文章作法』**ぎょうせい 1978年7月15日刊。定価1200円。●テレビ時代の盲点、文体と構成法。■2007年8月1日『東京都交友会会報』第256号「たった一回だけの人生～三つの目標のゆくえ」。

＊教材図書の古本は、毎回、受講者間でオークションを開き、頒布します。

●東京都杉並区浜田山4-10-8
●京王・井の頭線「浜田山」徒歩7分（500m）
●南北バス・すぎ丸・けやき線（阿佐ヶ谷～浜田山）バス停「浜田山小学校」徒歩5分